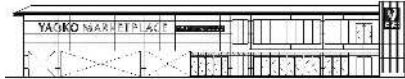


# CASBEE® - 建築(新築) | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ヤオコー和光南店 新築工事	階数	地上2F
建設地	埼玉県和光市越後山土地区画整理事業6街区1画地 他9画地	構造	S造
用途地域	第一種住居・第一種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	100 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,850 時間/年(想定値)
建物用途	物販店,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年1月 予定	評価の実施日	2021年6月1日
敷地面積	3,256 m <sup>2</sup>	作成者	大浦健二
建築面積	2,597 m <sup>2</sup>	確認日	2021年6月1日
延床面積	4,958 m <sup>2</sup>	確認者	内海幸夫



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (230 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 87% (200 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③上記+②以外の 87% (200 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

④上記+ 87% (200 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5

Q1 室内環境: 3

Q3 室外環境(敷地内): 3

LR1 エネルギー: 2.6

LR2 資源・マテリアル: 3.3

LR3 敷地外環境: 3.3

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.9**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.0

**LR のスコア = 3.0**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.6

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		その他
<b>総合</b> ・外皮性能を高め、高効率な設備機器の導入により環境負荷の低減を図るとともに、ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出量の低減に努めている。		-
<b>Q1 室内環境</b> ・喫煙室を設け、非喫煙者に配慮している。	<b>Q2 サービス性能</b> ・耐用年数の長い内装材・設備機器の採用により、建物の耐用性の向上に配慮している。 ・階高を高く確保することで、設備の更新性に配慮している。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> ・積極的な外構緑化や緑の質の確保等により、生物環境の保全・創出に配慮している。
<b>LR1 エネルギー</b> ・高効率な設備機器を導入し、エネルギーの効率的利用に配慮する。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・リサイクル材の採用により、資源保護を図っている。	<b>LR3 敷地外環境</b> ・周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画としている。 ・燃焼機器の設置をなくし、大気汚染防止に配慮している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**(仮称)ヤオコー和光南店 新築工事**

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.9</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.35</b>		<b>-</b>		<b>2.7</b>
<b>1 音環境</b>				<b>2.6</b>	0.15				<b>2.6</b>
1.1 室内騒音レベル				<b>3.0</b>	0.40				
1.2 遮音				<b>3.0</b>	0.40				
1 開口部遮音性能				3.0	0.82				
2 界壁遮音性能				3.0	0.18				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									
1.3 吸音				<b>1.0</b>	0.20				
<b>2 温熱環境</b>				<b>2.0</b>	0.35				<b>2.0</b>
2.1 室温制御				<b>3.0</b>	0.50				
1 室温				3.0	0.44				
2 外皮性能				3.0	0.20				
3 ゾーン別制御性				3.0	0.35				
2.2 湿度制御				<b>1.0</b>	0.20				
2.3 空調方式				<b>1.0</b>	0.30				
<b>3 光・視環境</b>				<b>3.0</b>	0.25				<b>3.0</b>
3.1 昼光利用				<b>3.0</b>	0.51				
1 昼光率				-	-				
2 方位別開口									
3 昼光利用設備				3.0	1.00				
3.2 グレア対策				-	-				
1 昼光制御				-	-				
3.3 照度				-	-				
3.4 照明制御				<b>3.0</b>	0.49				
<b>4 空気質環境</b>				<b>3.7</b>	0.25				<b>3.7</b>
4.1 発生源対策				<b>4.0</b>	0.50				
1 化学汚染物質		天井裏も含めて全面的にF☆☆☆☆を採用		4.0	1.00				
4.2 換気				<b>3.0</b>	0.30				
1 換気量				3.0	0.50				
2 自然換気性能				-	-				
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50				
4.3 運用管理				<b>4.0</b>	0.20				
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	0.50				
2 喫煙の制御		喫煙室を設け、非喫煙者に配慮		5.0	0.50				
<b>Q2 サービス性能</b>					<b>0.30</b>				<b>3.2</b>
<b>1 機能性</b>				<b>3.1</b>	0.40				<b>3.1</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>3.0</b>	0.40				
1 広さ・収納性				-	-				
2 高度情報通信設備対応				-	-				
3 バリアフリー計画				3.0	1.00				
1.2 心理性・快適性				<b>3.0</b>	0.30				
1 広さ感・景観		天井高を確保することで広さ感や開放感に配慮		4.0	0.33				
2 リフレッシュスペース				2.0	0.33				
3 内装計画				3.0	0.33				
1.3 維持管理				<b>3.5</b>	0.30				
1 維持管理に配慮した設計		防汚性が高く、維持管理しやすい内装材の採用		4.0	0.50				
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50				
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.2</b>	0.30				<b>3.2</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.0</b>	0.50				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>4.0</b>	0.30				
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		耐用年数の長い外装仕上げ材を使用		5.0	0.20				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		耐用年数の長い内装仕上げ材を使用		5.0	0.10				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		耐用年数の長い配管材を使用		5.0	0.20				
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20				
2.4 信頼性				<b>2.6</b>	0.20				
1 空調・換気設備				3.0	0.20				
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20				
3 電気設備				3.0	0.20				
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20				
5 通信・情報設備				2.0	0.20				

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.4</b>	0.30	-	-	<b>3.4</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.6</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高を確保することで将来の用途変更に考慮	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	空間の自由さを確保し将来の用途変更に考慮	4.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.35	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.0</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>2.6</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			<b>2.0</b>	0.20	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = 0.85	<b>2.7</b>	0.50	-	-	<b>2.7</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
1.1 節水			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.5</b>	0.60	-	-	<b>3.5</b>
2.1	材料使用量の削減	F.T.Pile構法、ハイベースNEO、QLデッキの採用	4.0	0.11	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.22	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	-	-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	LGIS工法より躯体と仕上げは容易に分別可能	5.0	0.22	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.3</b>	0.20	-	-	<b>3.3</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用		PRTR法の対象物質を含有しない建材種別が1つ以上ある。	<b>4.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		LCCO2排出率:87%	<b>3.5</b>	0.33	-	-	<b>3.5</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
2.1 大気汚染防止		燃焼設備の設置はない。	<b>5.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>3.7</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	必要量を上回る流出抑制対策を実施している。	4.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐輪場及び駐車場、荷捌き用車両の駐車施設を確保	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.50	-	-	
2	振動		3.0	0.50	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害チェックシートの過半を満足	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

# CASBEE埼玉県

# 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

建物名称	(仮称)ヤオコー和光南店 新築	BEE	1.0	BEEランク	★★★
------	-----------------	-----	-----	--------	-----

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
3.5	+	2.6	=	6.1	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上			すばらしい 8.0以上
					

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO2の削減</b>		スコア平均	3.5
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.5
<配慮した内容を記述> 適切な量の駐車場を設置して交通負荷抑制に努めた。			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	2.6
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	3.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	2.0
<配慮した内容を記述> 特になし			

: 入力欄